

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170600029		
法人名	社会福祉法人誠和福祉会		
事業所名	グループホーム みふね庵		
所在地	〒843-0233 佐賀県武雄市東川登町4058番地の5 (電話) 0954-20-0506		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224番地2		
訪問調査日	平成 19 年 12 月 18 日	評価確定日	平成 20 年 2 月 6 日

## 【情報提供票より】(平成 19年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤	10人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,300 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成 19年11月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	古賀内科医院 寺尾歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は武雄市の閑静なところに位置し、その隣には特別養護老人ホームなどの同法人の介護関連事業が行われている。ホームは木造平屋建ての構造であり、その外観、玄関から居室、食堂、居間に至るまで、木のぬくもりを与え、ゆっくりと安らげる空間が作られている。居室・和室の配置、檜風呂の浴室など、建物は家庭的な雰囲気と生活のしやすさに配慮した構造となっている。事業所の理念の根幹となる、「ご本人にとって、楽しいことは、より長く、楽しくないことは、より短く」というテーマに力をいれ、管理者、職員全体、利用者同士が共に楽しく過ごせるよう、ケアが行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果については、それぞれに理解され、それらが利用者の様々な状況に応じて活かすことが出来るよう、管理者、職員全体で話し合いが行われ、サービス向上に取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、全職員で話し合い、改善に取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、自己評価、外部評価、ケア内容の報告と意見交換が行われており、サービスの向上に活かせるよう取り組まれている。今後の更なるサービスの質の向上に繋がる様、市担当者等と広く協働・連携できる関係作りを行っていく事が期待される。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族来訪時や電話連絡にて、家族とは日頃よりコミュニケーションを図り、家族が意見等を言いやすい雰囲気作りに努められている。また、その時のご家族の声は運営推進会議の中で検討され運営に反映できるようにされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域で開かれるイベント(祭り等)に年3回ほど参加を行うなど、地域との交流がなされている。また、今後、地域活動や行事についての情報を収集し、利用者の方が負担なく楽しんで参加できるよう、また、不安・不穏な気持ちになることなく地域の方と交流していけるよう、交流の前段階として地域の方に認知症の理解を深めていけるような取り組みにも努められている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「緩やかに、共に、楽しく、そして可能な限りに・・・」という開設当初からの理念を掲げ、認知症がある利用者の方が、その人らしく、地域や施設の中で、心豊かに暮らし続けていけることを支えていくことを目指した事業所の理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員の見やすいところに掲示されている。又、管理者と職員は理念をよく意識し、話し合いを行いながら、その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開かれるイベント(祭り等)には年に3回程度参加されている。また、そうした行事等の情報収集にも取り組まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義・目的の理解や、それを通して入居者の状況に応じて活かせるよう会議等にて話し合いが行われている。また、外部評価の結果を管理者、職員全体で共有し、サービス向上に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価、外部評価、ケア内容の報告が行われ、そこで意見をもらい、今後のサービスに活かせるよう取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市担当者へは運営推進会議の参加依頼を行い、助言など得られるように取り組まれている。	○	市担当者に対し、事業所の実情や課題、ケアサービスの取り組みを伝える等、運営推進会議以外にも協働・連携できる関係作りを行っていく事が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	ホームでの日頃の様子や健康状態などを、家族来訪時や電話連絡にて情報提供が行われている。また、ホームでの活動写真などを載せた法人のお便りを年3回発行され、家族への配布が行われている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関には意見箱を設置されている。また、家族の来訪時や運営推進会議の中で寄せられた意見を、日常の業務の中で取り入れられるようミーティングを行い、運営に反映できるよう取り組まれている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の要望を受け止め、可能な限り勤務調整を行い、継続したケアが行えるよう配慮されている。また、新しい職員が入る際には、言葉かけや接し方など既存の職員に付き添って慣れてもらい、入居者との関係が築いていけるような配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	事業所内の勉強会への参加、資料文献の配布などを行い、認知症介護への理解を深めていけるよう取り組みが行われている。また、外部研修など職員の希望に応じ、時間調整を行うなど参加できるよう配慮されている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県内のグループホーム協会での交流が行われているが、施設として地域の同業者とのネットワーク作りについては現在、模索されているところである。	○	地域の同業者とのネットワーク作り、交流や勉強会を通じて、より一層のサービスの質の向上へつながることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人の家庭での生活や身体状態の把握を行い、可能な限り施設を体験してもらう等心理的負担をかけない様、ご家族と相談し対応されている。入居日には、花束を渡したり、居室を花で飾る等し、歓迎の気持ちを伝え、本人がよい印象をもって生活に望める様な工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意なことや昔のしきたりなどを、様々な生活場面で職員が教えてもらったり、また、そうした場面を多くもてる工夫や声かけなど配慮されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のその時々々の体調や気分に合わせて支援されている。また、利用者の口調や表情などから、表に現れない気持ちを考えながら、日々の関わりを通して利用者の意向の把握ができるよう取り組まれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の負担とならないよう面会時などにあわせて、お話し合いという形で堅苦しくならない雰囲気担当で会議を実施されている。そこで、家族の気付きや意見、要望など聴き、ケアプランに取り入れるようにされている。また、参加が難しい場合は電話連絡にて意見を事前に伺うようにされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常、6ヶ月ごとに見直しが行われているが、入居者の入退院などで状況の変化があったときは、家族と話し合いを行い、ケアプランの変更を行うようにされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者個々の状況に合わせて、通院や買い物などの必要な外出の支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を継続できるよう支援されている。また、かかりつけ医が遠方、また夜間対応が出来なかったりする場合は、家族等の意向に添って適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の個々の状況、また、家族の思い等を受け、可能な限り対応できるよう、ケア方針の話し合いが行われている。しかし、ホームとしての終末期等の対応についての指針は作成されていなかった。	○	重度化、終末期に対するホームとしての方針を立て、家族や主治医等と共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの声を傾聴し、人格やプライバシーを大切に言葉かけや対応が行われている。また、記録等の個人情報は事務所で管理され、取り扱いには十分配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活歴や、ホーム内での日々の生活の中で口にする言葉等から、入居者の希望する過ごし方を模索し、出来る限り本人の意向に添えるような支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の体調等に応じて、食事の準備から片付けを職員と一緒にやっている。また、ホーム内で食事懇談会を開き、入居者と職員の話し合いにて、献立が決められている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後の時間帯に行われているが、入居者それぞれに入浴の意向を確認しながら対応されている。入浴の順番等は決めず、午前の時間帯の希望があれば、可能な限り、希望に添えるよう調整されている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯物干し・たたみ、戸締り、玄関の掃除など入居者個々の特性が活かせるような支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの裏庭等への散歩、併設施設の行事等への参加、また、入居者の希望に応じて、神社参りや買い物等の外出支援も行われている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自由に外へ出られるよう、鍵はかけられていない。入居者が外へ出られる時には、一緒に付き添うなどの支援がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、併設の施設と共同で年に6回の避難訓練が実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々人の食事や水分の摂取量は、日々チェックされ把握されている。また、併設施設の栄養士から、栄養バランスなどの専門的アドバイスを受け、食事が作られている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームが木造であり、室内は木の温かさを感じさせる作りとなっている。また、建物の中心には中庭があり、自然の明かりが差し込み心地よく感じられる。和室には神棚が祭られ、季節に応じた花を飾られるなど、心地よい空間作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者には、自宅で使い慣れた筆筒や身の回りの品、仏壇などを持ち込んでもらい、自分の部屋で居心地よく生活が継続できるよう支援されている。		